

2004年

11

月号

Stage Up

生涯学習情報誌
ステージ・アップ
通巻 No. 135



「秋のニヶ領用水宿河原堰」：佐藤 尚 画

もくじ

- 2 生涯学習ア・ラ・カルト
- 4 特集 インタビュー 海老原 宏美さん
- 6 ぐるーぷBOX/いま地域で学校で
- 7 まち・ひと・多面体/くらし百景 歌壇
- 8 イベントパーク

発行・(財)川崎市生涯学習振興事業団
〈ホームページ〉 <http://www.kpal.or.jp>

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1
TEL 044 (733) 5560(代)/FAX 044 (739) 0085
TEL 044 (733) 5811 (ステージ・アップ直通) E-メール:stage-up@kpal.or.jp

●アカデミー●

かわさき市民アカデミー第10回学園祭

かわさき市民アカデミーの受講生が全面的に企画運営する第10回学園祭が11月20日(土)21日(日)を中心に実施されます。今年もたくさんの催しが準備されています。皆様のご来場をお待ちしています。

11月11日(木)

- ◆講演「フランドルの祭壇画」(13:00～)
講師：岡部 紘三(東洋大学教授)
会場…新百合21ビル 地下2階 多目的ホール

11月20日(土)

- ◆記念講演「戦略としての川崎臨海部の再生－環境先進型まちづくりの視点」(11:00～)
講師：阿部孝夫・川崎市長(予定)
- ◆講演「小さな町の大きな挑戦－ゴミ焼却場建設ルポ」(13:30～)
講師：井出孫六(作家)
- ◆講演「学徒出陣から捕虜生活を体験して」(15:15～)
講師：福富 伸康(アカデミー97歴史OB)
- ◆講演「小津安二郎の世界」(13:30～)
講師：江藤文夫(評論家) 笠原衛(写真家)
- ◆展示「アカデミー史」「川崎学Ⅲ・Ⅳ」「みどり学」
※展示は20日10:00～21日15:00まで
- ◆フリーマーケット(10:00～15:00・雨天時は翌日)
会場…川崎市生涯学習プラザ

11月21日(日)

- ◆講演 高齢者福祉「高齢者の住まいと環境」(10:00～)
講師：溝口千恵子(高齢者住環境研究所代表取締役)
- ◆講演「追憶の作家たち」(11:00～)
講師：宮田 稔栄(文学評論家)
- ◆講演「アメリカ大統領選挙とこれからの世界」(13:00～)
講師：遠藤 誠治(成蹊大学教授)
- ◆講演とディスカッション「福祉と街づくり」(13:00～)
講師：連 健夫(建築家)
- ◆朗読発表会「作者のこえ・ことばを読む、時代のこえ・ことばを読む」(13:00～)
出演：03ことばと映像 受講生
会場…川崎市生涯学習プラザ

11月30日(火)

- ◆朗読劇「この子たちの夏」(13:00～)
出演：かわさき「ひまわりの会」(フロンティア)
会場…川崎市生涯学習プラザ

12月2日(木)

- ◆解説と演奏「新内流し」(13:00～)
講師：竹内道敬(放送大学客員教授)
新内伸三郎・新内剛士(人間国宝)
会場…新百合21ビル 地下2階 多目的ホール

問い合わせ アカデミー室 ☎044(733)6626

生涯学習ア

●はぐくむ●

「ふれあいサマーキャンプ」
川崎の子ども大使が7市町村へ

市内の小中学生200名が、今年も夏休み中に川崎市と友好関係にある北海道から和歌山県までの7市町村で「ふれあいサマーキャンプ」を体験してきました。

このキャンプは1990年、川崎の子どもたちの心身の健全育成を図ることを目的に、川崎市青少年地域間交流事業として始まりました。

川崎市の顔として参加した子どもたちは、自然豊かな各地域で、それぞれの特性を生かしたさまざまなプログラムを体験し、地元の人々と交流を深め、大きな成果を取って川崎に戻ってきました。

長野県富士見町コースでは、7月31日、地元富士見町の「富士見OKKOH(オッコ)まつり」に41名の子どもたちとスタッフが参加しました。



「富士見OKKOH(オッコ)まつり」で踊るサマーキャンプに参加した子どもたち

まつり前日、そろいの衣装を自分たちで作成し、踊りの練習に励んで当日を迎えました。

まつりでは、町のメインストリートで、全員で踊りながら練り歩きました。子どもたちは、見事な団結力を発揮した踊りで「富士見町議長賞」を獲得しました。

15回目を迎えた岩手県東和町コースや初めての実施となった和歌山県コースでも交流の様子が地元の新聞やテレビで大きく報道されました。北海道の岩見沢市や中標津町でも地域の子どもの交流を楽しみましたが、10回目を迎えるはずだった宮崎県コースは、残念ながら台風の影響で中止となりました。

来年6月にも、新しい年度の「ふれあいサマーキャンプ」参加者を募集します。発見いっぱいのわくわく体験を通して、子どもたちは一回り大きくなって帰ってくることでしょ。ふるってご参加ください。

ラ・カルト

●たのしむ●

「冬休みスノーボード教室」開催

冬休みに屋内ゲレンデで「スノーボード」に挑戦してみませんか？

《期 間》 1月5日(水)～1月7日(金)

① 1日体験コース 9:30～11:00
(期間中のいずれか1日を指定)

② 3日間コースA 12:00～13:30

③ 3日間コースB 14:30～16:00

《対象・定員》 各コースとも小学生と中学生各15人

《受講料》 ・1日体験コース 3,000円

・3日間コース 9,000円

(ウェア・手袋・シューズ・ボードのレンタル料と保険代を含む)

《会 場》 スノーヴァ溝の口-R246

(JR南武線「津田山駅」下車 徒歩2分)

《申し込み》 12月15日(水)必着で、往復はがきに郵便番号、住所、氏名、年齢、身長、くつのサイズ、きき足、電話番号、①～③の希望コース名、①1日体験コースは希望日を記入し、下記にお送り下さい。

〒211-0064 中原区今井南町514-1

川崎市生涯学習振興事業団 学習推進室

問い合わせ ☎044(733)5572

●さがす●

「生涯学習情報コーナー」をご利用ください

教育文化会館と高津市民館にあります「生涯学習情報コーナー」において、当学習情報室の相談員が、次の曜日に皆様の学習相談にお応えしています。

◆教育文化会館——火～土曜日9:00～16:00

(1階) (年末年始と祝祭日を除く)

◆高津市民館——火・水・金曜日13:30～16:30

(ノクティ②11階) (年末年始と祝祭日を除く)

15年度は、上記のコーナーに約12,000人の方々が訪れ、行政関係の定期刊行物や生涯学習に関する各種パンフレットやチラシなどの情報を自由に閲覧し、持ちかえられました。また、相談内容としては、「ホームヘルパー養成・パソコン・ハンゲル・手話」などの講座に関わること、「絵手紙・バレーボール・ギター」などの団体・グループ活動に関わること、「フラダンス・折り紙・古典文学」の指導者人材に関わることなど約2,200件ありました。

情報コーナーでは、皆さんが求められているこのような相談にも応じていますので、気軽にご利用ください。

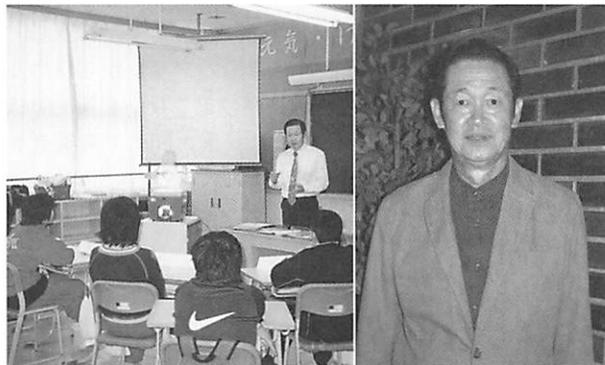
問い合わせ 学習情報室 ☎044(233)6250

アカデミーと色彩

全国各地で環境教育を支援する

土井彰さん

「かわさき市民フロンティア」は、かわさき市民アカデミーで学んだ人たちの組織ですが、長年の社会経験を生かして、すでに活動し社会貢献している多様な知的資産を持った人たちが多数おります。



その中の一人、土井彰さん(現在O3科学コース)は、企業では研究所長、技師長として活躍され、また大学の講師もされた理学博士の方ですが、リタイアされてからは「エネルギー環境教育情報センター」の活動に参画され、学校や地域社会におけるエネルギー問題や地球環境問題などに関する学習を、実践的に支援する活動をされています。学校や教育機関、市民活動グループから依頼があると、授業や研究会の講師、またカリキュラム、教材開発のアドバイザーとして出向いています。すでに北海道から大阪まで広範に活動されています。

かわさき市民アカデミーでは04年度から市民自主企画講座を立ち上げましたが、土井さんは「環境の最先端を知る—都市と環境の共生」の講座の中で「エネルギー・発展・環境を考える」の講師を担当されました。討論を主体とした講座では、多くの実際的なデータをもとに講義をされた後、さらに活発な討議があり盛会でした。

また、土井さんはこの他に「日本工学アカデミー」、「エネルギー問題に発言する会」、「テクノブレイズ東京」のメンバーとして、最先端技術を学びながらその紹介に務めるなど、実に意欲的です。

土井さんは「人類がこのままの生活を続けてゆくと、近い将来高等動物は滅びます。この時期を遅らせることが出来るのは人間の知恵と技術です。このために最も必要なものは教育だと思います」と話していました。

(かわさき市民フロンティア 竹内誠一郎 記)

このコーナーは「かわさき市民アカデミー」の修了生による組織で地域貢献を目的とした「かわさき市民フロンティア」が担当します。

特集

インタビュー

車いすユーザー

海老原 宏美さん

「こんにちは。初めまして」。電動車いすを巧みに操り、さわやかな笑顔で待ち合わせ場所に現れた海老原宏美さん。海老原さんは1歳半の時に「脊髄性筋萎縮症」と診断され、成長するにつれて筋力が低下し、常時車いすを使うようになりました。今では文字を書いたり食事をしたりすること以外の身のほとんどもを介助者の手にゆだねています。しかし、海老原さんは障害をものともせず、韓国のプサンからソウルまでの500キロを野宿しながら歩き、バリアフリーを訴えるほどの行動派。現在、川崎の親元を離れ、東大和市で障害者をサポートする「自立生活センター」で働いています。

「好きな言葉は？」の質問に「気合い」と答え「できる、できないではなく、やるかやらないかなんです」とさらりという海老原さんに現在の生活や障害者の自立について伺いました。



自立して地域で生きる

——海老原さんは生後1歳半で難病と診断され、それ以来車いすの生活をされているわけですが、そういった状況の中で、なぜ親元を離れ自立しようと思ったのですか。

海老原 海老原家には「高校を出たら一度は親離れ子離れのために家を出る」という決まりがありました。障害者の場合、親が倒れてしまうまでは親に介助してもらうことが一般的です。しかし親にも自分の人生を楽しむ権利があるから、子どももある程度まで育ったら自分のことは自分でするという両親の考えのもとに育てられてきました。私も親の介助にばかり頼ってられないし、体力的にも経済的にも精神的にも親に依存していることは親も自分も大変ということがあります。家族に頼むとなると、それぞれの都合も考えなければいけない。お互いに遠慮したり犠牲になったりということでは自由ではないし、自分も窮屈だったのです。

大学時代、大学の近くにアパートを借りて、週の半分をそこで暮らす「半自立」をしていました。友達を30人くらい集めて、交代で毎日泊まりに来て身の回りのことをしてもらいました。他に送迎ボランティアや巡回入浴サービスの手配、夕飯を作ってくれる人の募集などは自分でしていました。連絡ミスで迷惑をかけつらい事もありましたが、その経験が今の生活にいきていると思います。親にずっとくっついていられるわけにはいかないと思うようになったのは大学時代からです。

——現在「自立生活センター」で働いているということですが、

どんな仕事をしているのですか。

海老原 「自立生活センター」というのは、地域で自立生活を送る障害者を多面的にサポートする所で、情報提供、権利擁護、介助者派遣、相談、移送サービス、ピアカウンセリングなどを行っています。「障害者の支援は障害者が主体となって事業をしよう」という考え方が基礎になっているので、スタッフの半数以上また、理事長、代表などが必ず当事者でなければならないという条件があります。「自立生活センター」の掲げる「自立」とは、一般的に言われる「身辺自立」や「経済的自立」ではなく、「自己選択・自己決定・自己責任」ということこそが、万人に与えられた「自立」であるという理念です。私の勤務は週4日で時間は9時半から夕方5時半までです。障害がある人の中には「自分は人から面倒を見てもらわなければならない役に立たない人間だ」というような意識を植え付けられている人がたくさんいます。ピアカウンセリングとは障害の種類や程度は違うけれど、一人ひとりが地域に暮らす人間だということを実感して、自分たちが活動していけるような自信を取り戻すためのカウンセリングのことです。また、コンビニで買い物をしたことがない、銀行口座の作り方がわからないなどという人のために、自立に向けて具体的な自立生活プログラムを実施しています。事務所で仕事以外に会員宅を訪ね様子を伺ったり、イベントを企画して社会参加を促したり、会員募集のポスターを貼ったりしています。

◆お知らせ◆ 海老原さんの母、けえ子さんが娘とともに歩んだ24年間の思いを綴った本「泣

——子どものころのことを伺いたいのですが、小・中学校は川崎の地元の学校に通ったそうですね。

海老原 私が小学校に入学した20年前は、重度心身障害児が普通学級に籍を置くという前例がなかったのです。両親は障害があっても地域の中で育てたいと考えていたようです。1年生の時は母がずっと付き添っていましたが、2年生くらいからは、遠足などの行事の時は必ず付いていましたが、普段は登下校時とトイレの時と給食の時間だけになりました。

中学時代は小学校と違って、先生たちが私にどうしたいのかをいつも聞いてくれました。1年生のスキー教室の時は親が付いて来たのですが、2年生の夏季教室には「もう親に付き添ってもらいたくない」と担任に話したら、先生たちで介助しようということになり、交代でハイキングコースをおぶって歩いてくれました。私が中学に入学した年に退職された仲野達三校長先生が「初めて車いすの子が入って来るけれど、何かをやってあげるといふ気持ちでなく、本人からよく聞いて教えてもらうという姿勢で接してください」という言葉を残したそうです。いろんな場面で先生たちはそのような姿勢で臨んでくださったと思います。



中学一年生の遠足でのコマ(提供写真)

——ずっと健常者の中で生活してきて、いま障害のある人のサポートをしているわけですが、どんなことを感じますか。

海老原 生まれてから大学までは健常者の中にいて、その中で自分は目立つ存在でしたし、発言や行動が周りに及ぼす影響が大きかったです。大学時代に一人暮らしした時は、友人たちが交代で身の回りの手助けをしてくれましたが、私の生活にかかわることで「障害があっても、人の手を借りながらやっていける」ということを肌で感じたと思います。私の生活を見せしていくことで、障害者に対する先入観や偏見を少しは取り払うことができたのではないかと思います。

いま、障害のある当事者と向き合った時、障害者同士お互いに差別感を持っているということを実感します。例えば「海老原さんは知的には障害がないから意見を言えるし、社会も認められる。だからあなたの障害の方がいい」と言われることがあります。育ってきた環境や背景、障害の種類や程度などの違いがあったとしても、どの人にもこれから伸ばしていける良いところがあると思っています。それなのに単純に比較して「私には無理」とシャットアウトしてしまう人が多いのです。当事者が自分の生き方を見つける力をつけていくことが大事だと考えているので、どういう形で自分がかかわったらよいか模索しています。自立しようとする障害者は少数ですが、自分の生活を選択していく喜びを知り社会参加してほしい。何もできなくても、介助者をつけて生活しているんだということを周囲に知ってもらうだけでも社会参加であり、大きな役割を果たしていると思うのです。それぞれ



自らの体験を話す海老原さん(本年六月、向丘中学校にて)

が自分にあった役割を探していけるようにサポートしたいですね。

——「障害者」と表現されることについてどう考えますか。

海老原 害虫の「害」という字が使われていますが、社会ではこう呼ばれているんだ、ということアピールするために皮肉をこめてそのまま使っていますね。むしろ「被障害者」というのが適切な表現だと思っています。健常者中心に社会が作られているから、さまざまなバリアがあってこちらが障害者とみられているだけなのです。障害のある人が不自由を感じない社会的環境が整っていれば「障害者」ではないと思います。英語が話せる車いす利用者が、英語ができない介助者とアメリカに行ったらどちらが障害者かという、そういう場合は言葉が不自由な介助者の方が障害者だとは言えないでしょうか？そう考えた時、社会の環境によって「障害者」の定義が変わってくると思います。こちらが障害を被っているという意味で「被障害者」があるのかなと思います。

——今後、川崎で活動しようという気持ちはありますか。

海老原 私が自立生活をしようと決断した時、「全身性障害者介護人派遣事業」という制度を使わないと自立は難しかったのです。その時、川崎にはその制度がなかったので、東大和市で生活することにしました。これまでのノウハウを蓄積し、自分の中でいま抱えているさまざまな問題を解決する糸口が見えてきたら、川崎で役立ててみたいと思います。自分でなければできないことが、きっとあると思っています。

◆「自立生活センター」(CIL=Center for Independent Living)とは、障害者が中心となって運営し、地域で自立生活をする障害者を多面的にサポートする団体。発祥の地はアメリカ合衆国で、日本では1986年に八王子市に初めて誕生し、現在全国に132団体ある。

海老原 宏美さん (えびはら・ひろみ)

1977年、川崎市生まれ。川崎市立向丘小学校、平中学校、神奈川県立生田高等学校を経て東洋英和女学院大学人間科学部を卒業。2001年、日本と韓国の障害者と健常者の若者が韓国のプサンからソウルまでの500キロを歩きバリアフリーを訴える「日韓TRY2001」の実行委員として活躍。東京都東大和市の「NPO法人自立生活センター東大和」に勤務し自立生活をする障害者を支援している。

ぐるーぷBOX

しなやかに軽やかに羽根を追う

「川崎シャトルクラブ」

「川崎シャトルクラブ」(山本陽子代表、メンバー24人)は、子育てが一段落した女性を中心に、健康と仲間づくりを目的として始めたバドミントンの会です。市体育館主催のバドミントン教室を修了した有志で1975年に発足しました。同会では長年、神奈川大学の学生に指導を依頼しており、現在の指導者は3年生の渡部匠さんです。メンバーのほとんどが入会して初めてラケットを握ったという方たちです。秋に開催される「神奈川県レディースカップ」の団体戦を前に練習に励む同会を取材しました。

練習は準備体操から始まり素振り、基礎打ち、フットワーク、そしてパターン練習と続きます。それぞれが先生役、生徒役になって「オールショート」(先生が短く打ち、生徒が拾う)と「オールロング」(先生が長く打ち生徒が追う)をします。ダブルスで動きを考えながらハイクリア(高く遠くへ打つ)などの練習もしています。一通りパターンを終えると、今度はレベルの違う人と組んでの実戦練習。のどを潤し、さらに同レベルの人とペアになり試合をします。随時休憩をいれながらの練習ですが、全員汗びっしょり、床にも汗がしたたり落ちるほどの運動量です。コートの上は縦が13.4m、

横は6.1m、前後左右にシャトルを追う姿は真剣そのものでした。

入会して12年目という女性は「市の広報で知り入会しました。ゲームをすると一つひとつ何かが習得できる、それが楽しくてしょうがない」と息を弾ませながら語ります。代表の山本さんは、4面のコートに常に目を配りながら「みんなと協力して楽しくやっています。上手なショットを打てた時が一番気持ちいいですね」と笑顔で話してくれました。

◆活動日：毎週木曜日 9時半～11時45分

◆場 所：主に川崎市体育館

◆連絡先：☎044(544)1945 泉さん



いま地域で学校で

できるときにできることをしよう

— 菅生小学校ボランティアの会 —

宮前区の菅生小学校(高橋和一校長、児童数611人)では、5年前に川崎市PTA協議会より委託研究を受けたことがきっかけで「ボランティアの会」が発足しました。この会では「人に何かをしてあげることよりも自分たちが楽しく活動すること」を重点に、子どもと保護者メンバー約50人が一緒に取り組んできました。「できるときにできることから始めよう」を基本に、校庭の花壇のレンガ積みや平瀬川の清掃、老



人福祉施設の訪問など、さまざまな活動を行っています。

ある日の午後、介護老人福祉施設「長沢壮寿の里」を訪ねた「ボランティアの会」を取材しました。保護者メンバーと共に「ボランティアの会」の子どもメンバー17人がやってきました。折り紙で作ってきた花束や鶴と亀を一人ひとりに手渡すと、受け取った方々から笑みがこぼれました。その後、用意してきたゲームを数人ずつのグループに分かれて行いました。「バランスゲーム」では、一年生の児童が一生懸命手助けをしている姿が見受けられます。高齢者の方がうまくできると自然に拍手がわき、和やかな雰囲気です。傍らでは93歳の方が「一番初めは一ノ宮、二は日光の中禅寺、三は佐倉の惣五郎…」という数え歌にあわせて、お手玉をしています。そのお年寄りの手さばきをまねて、5年生の女子3人が挑戦しますが、なかなかうまくいきません。練習する子どもを優しくまなざしで見守っていたその方は「子どもが大好きです。ここに来てくれるのがとても嬉しいです」と話していました。

子どもメンバーからは「壮寿の里には今まで何回も来ているので仲良く遊べる」「うまくお手玉ができるように、これからもずっと続けたい」などの声が聞かれました。見守っていた保護者メンバーの一人は「小学生にとってのボランティアは『自分たちが楽しく活動することで、他の人も嬉しいと感じている』ということを実感できることが大切だと思います」と話していました。

まち・ひと・多面体

学校図書館との新たな連携

「麻生図書館柿生分館」

麻生図書館柿生分館は、昨年6月、麻生区の柿生小学校の校舎改築にあわせ、市内で初めて学校の敷地内に設置された公共の図書館です。分館は、音楽室・家庭科室・図工室などのある棟の一階にあり学校の図書室と仕切りもなく一体的な施設となっています。

開設から1年余り、分館では児童書を多めに所蔵したり、授業支援として利用時間を通常の開館より30分ほど早くしたり、クラス単位で団体貸し出しカードを発行し、国語や理科、社会の授業時にまとめて利用できるようにするなど、学校と連携を図り特色ある施設づくりに取り組んでいます。同校の高柳教諭は「図書室が明るくなったことや、そばに利用者用検索機があり自由に本を検索できることで、子どもたちが図書館に足を運ぶ回数が増えたようです」と話しています。

夏休みには「かきお体験・図書館員1日コース」が6日間にわたり実施され、5年生1人と6年生5人が9時から15時まで一日交代で参加しました。体験メニューは、その日の新聞6紙を閲覧しやすいように整理するなどの開館準備に始まり、返却・貸出しカウンターでの業務、他館から予約のあった本を探すことなど盛りだくさんです。初日に図書館業務を



体験した男子児童は「自分が思っていた以上に仕事があり大変でした。でも、予約の本を探すのが一番面白かった」とやや緊張しながらも満足そうな表情でした。

分館職員の中野さんは「授業中そして放課後と図書館を利用する子どもたちを地域の方々も温かく見守ってくださっているようです。また、体験を通して子どもたちが図書館に親しみ、館を利用し、そして読書活動の推進につながればいいですね」と話していました。学校との連携を図りながら地域の身近な図書館としての新たな取り組みが期待されます。

◆川崎市立麻生図書館柿生分館 ☎044(986)6470

◆休館日…第1・3月曜日と年末年始

くらし百景 歌壇

川崎歌話会

身に合へる夢を育てむ冬枯れの草むら分けて露のたう萌ゆ
 伊豆の海を船もろとも引寄せ寄せて菜の花盛る丘に据えたり
 戦友の柩に石もて釘打ちき我が身にひびくその石の音
 寡黙なる夫がぼつりと咳けり子の逝きてより二十日たちしを
 玄海の夜闇の唸りをさびしみつつ蟹の甲羅の酒すすりある
 吹き荒れし空に新月白く冴え長く抱けるこたわりを拾つ
 エスカレーター二段下に立つ君が気づくわたしの今朝の寝ぐせに
 さあかえろ孫らうながし立ち上がる息子の姿におわる正月
 青柳の空を狭めて膨らめり色の深まる程に垂りつつ
 磧にたれが燃やせる仏壇の火を噴けるとき杳くかなかな
 暖むる夢のかさほど桜樹もろ枝にふゆの虚空をつかむ
 庭木々の芽吹きを見つつホスピスに刻過し居る君を思えり
 地下足袋を履けばやる気の泉わく独りごちつつ鞋をかける
 連獅子の舞ふさまに似て竹林大きく揺るる春の疾風に
 差しのぼる月のひかりに透かされて輪郭もなし我がさびしき
 泣きながら派兵の父を送る少女 遠き戦の残像になる
 そのけはい何かあらむと探せども狭庭しづもる啓蟄の朝
 我が裡を灯してをらむこの宵の菜の花めしの菜の花黄いろ
 携帯電話もメールパソコン持たずして事足る暮しひと日は短し
 かの夜のホテルのシャボン香り立ちサイゴン川が我にたゆたふ

吉村 恵子
 加藤 省吾
 工藤善之助
 斎藤 文子
 八城 水明
 叶 千代子
 柳野かおる
 西村百合子
 並木喜美子
 佐藤 光子
 村上 敬明
 小田 妙子
 森 ツヤ子
 加藤 紀子
 諫訪 順子
 松原 佳江
 飛弾 雅子
 鷺崎キヨ子
 河津 公子
 遊座 絹代

*川崎歌話会は、今年で五十周年を迎える伝統のある超結社の歌人の集まりです。春と秋には大会を開き、著名な講師を招き講演と参加者の提出歌について披露が行われ、高ポイントには賞が授けられます。

問い合わせ ☎044(五三)六四七七 佐藤

情報コーナー **イベントパーク** 講座・コンサート他

●第10回¹⁴柯の会展・併設吉田東霞書陶展

12月1日(水)～5日(日)10時～19時(最終日は17時)。アートガーデンかわさき。書、陶芸、水墨画、刻字などの作品約200点。無料。☎(422) 0515の吉田さん。

●浮世絵展

11月8日(月)～27日(土)。広景・一景 東京名所・江戸名所 戯画・鉄道絵展。川崎区の砂子の里資料館。無料。10時開館。日・祝日休館。☎(222) 0310。

●かわさき現代彫刻展2004

12月17日(金)まで。10時～17時。場所はTHINK(テクノハブイノベーション川崎)内「アウマンの家」周辺広場。JR浜川崎駅徒歩5分。石井厚生、酒井勝久、建畑朔弥、山田恵子、吉本義人の作品。☎(211) 4112の川崎商工会議所企画広報部。

●ミニ画廊スナック「琴」①俳画②油絵

①11月13日(土)まで、漆原一夫の作品。②11月13日(土)～27日(土)まで、金の作品。作品の展示は無料。場所は幸区鹿島田。☎(544) 0507。

●かわさきヤングミュージカル「ジャングルブック」

公募による小学生から大学生が出演するミュージカル。11月13日(土)18時、麻生市民館。協力券は大人1000円、高校生以下500円。市生涯学習振興事業団新百合分室(新百合21ビル地下2階)他で販売中。☎(200) 2280の市民文化室。

●ランチタイムコンサート

11月17日(水)12時15分開演、市役所第3庁舎ロビー。出演は、篠崎隆(オーボエ)、大和田浩明(ホルン)、池内章子(ピアノ)。曲目は「オーボエ、ホルンとピアノのための三重奏曲より」他。無料。☎(520) 0200のミュージザ川崎シンフォニーホール。

●第2回 ランチタイム・クラシックコンサート

11月10日(水)12時10分開演、ミュージザ川崎シンフォニーホール。出演は洗足学園音楽大学パーカッションアンサンブル。曲目は「ジークフリート・フィンク」、日本の歌より「すばる～浜辺の歌～故郷」他。1回券700円/回数券3000円(7枚綴り)。☎(520) 0200の同ホール。

●ロシアン・トランペットリサイタル

12月5日(日)14時開演、樺ホール。出演はアレクセイ・トカレフ(トランペット)井口真由子(ピアノ)。曲目は「トランペット協奏曲」「アヴェ・マリア」他。2500円。☎(812) 6090の同ホール。

●お散歩コンサート

11月13日(土)14時開演、川崎市教育文化会館大会議室。

声楽家古渡智江さんの指導で童謡や唱歌などを参加者で歌う。無料。☎(233) 6361の同実行委員会。

●図書館フォーラム・かわさき2004

11月20日(土)13時から、エポックなかはら。笠原良郎・全国学校図書館協議会顧問の講演と「図書館の専門性とは」をテーマにパネルディスカッション。参加費1000円。当日直接。☎(951) 1305麻生図書館の吉井さん。

●北身館フェスティバル

11月13日(土)10時半。北部身体障害者福祉会館。内容はボランティアサークルによる体験・紹介コーナー、模擬店、パザーほか。☎(811) 6631。

●川崎市民プラザダンスパーティ

12月18日(土)18時半から、プラザ屋内広場。演奏は東京キューバンボーイズJr。前売り券2500円。プラザフロントで発売中。☎(888) 3131。

●清泉ラファエラ・アカデミア特別講演会

12月11日(土)12時半、中村桂子・JT生命誌研究館館長の講演「21世紀は生命の時代～生命誌の視点から」。場所は清泉女子大学品川キャンパス。無料。☎03(3447) 5551の同大学生涯学習センター。

●川崎市定期能12月公演

12月4日(土)第1部13時開演。曲目は「藤戸」他。第2部15時半開演。「巻絹」他。川崎能楽堂。座席指定各3500円。チケットは11月4日(水)から同所で発売。☎(222) 7995。

●平まなびあいグループAndante講座2004

11月5日(金)は「モザイクタイルの小物づくり」▽11月19日(金)は昔ばなし研究所所長の小澤俊夫さんの講演「昔ばなしが語る子どもの姿」▽12月3日(金)は教育評論家村田栄一さんの講演「憲法はいま」。時間は毎回10時～12時。会場は宮前区の平こども文化センター。各1000円。3歳以上の保育あり、1回300円。☎・Fax(865) 8056の堀内さん。

●東芝科学館実験教室①GEMS探検隊②ガリレオ工房

①は11月20日(土)10時と13時半。「液体のミステリー」。対象は午前が小学1年～3年、午後は小学4年～中学生。各30人。②は11月27日(土)10時と13時半。「変り種万華鏡を作ろう」。小学4年以上各50人。費用は①②とも500円。要予約。☎(549) 2200の同館。

●演奏とトーク「ピアニスト小川典子さんと共に」

11月22日(月)18時40分開演。ミュージザ川崎市民交流室。80人(抽選)。2000円。懇親会希望者は別途3000円。☎11月10日(水)までに、住所、氏名、年齢、☎を記しFaxで。☎・Fax 042(796) 3777の21世紀川崎教育フォーラム。

フリーマーケットを開催します

(助)川崎市生涯学習振興事業団では、地域ふれあい事業として、フリーマーケットを開催します。思いがけない掘り出し物が見つかるかもしれません。ご来店をお待ちしております。

◆日 時…11月20日(土) 10時～15時(雨天の場合は翌日)

◆場 所…川崎市生涯学習プラザ 駐車場(武蔵小杉駅より徒歩12分)